

流域木材安定供給指針の概要

目 的

県産材安定供給に関する様々な課題に対して、取組の方向性を明確化し共有化を図ることにより、各林業関係者による総合的な取組を促進し、県産材安定供給体制の早期確立を目指す。

富士川上流域	富士川中流域	山梨東部流域
<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 経営規模の零細性、境界不明、森林所有者の関心の低下による事業地の確保困難 ○ 木材価格に見合う原木生産コストの低減 ○ 原木市場における原木入荷量の減少と販売不振 	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林所有者の山林への関心低下、森林情報の未整備、渉外事務による事業地のとりまとめが困難 ○ 現場条件による最適な低コスト作業システムの選択が不明 ○ 需要者や取引相手への情報発信不足 	<p>現状・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林の所有形態が小規模・分散化、森林所有者の山林への関心の低下による集約化が困難 ○ 木材生産の効率化を進め、森林所有者に利益を還元 ○ 原木市場に活気がなく、原木入荷量の減少と販売不振
<p>方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林施業プランナー育成による提案型集約化施業の推進 ○ 作業路と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムの導入 ○ 需要者のニーズに応じた新たな販売方法の導入等による市場の機能強化 	<p>方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 事業地を効率的に確保する提案型集約化施業を実践できる森林施業プランナーの育成 ○ 作業路と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムの導入 ○ 新規需要者の開拓のための、ITを活用した情報発信体制の強化 	<p>方 策</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 森林施業プランナーの育成、提案型集約化施業の推進 ○ 作業路と高性能林業機械を組み合わせた低コストで効率的な作業システムの導入 ○ 原木市場の運営体制の見直しを行い、安定的な原木供給体制の構築と、新たな販売先の開拓

県 産 材 供 給 目 標

富士川上流域	富士川中流域	山梨東部流域
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">現状値 (H16~H20)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">137千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 61千m³</p> <p>民有林 76千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">現状値 (H16~H20)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">94千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 31千m³</p> <p>国有林 10千m³</p> <p>民有林 53千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">現状値 (H16~H20)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px;">100千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 60千m³</p> <p>民有林 40千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">↓</p>
<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">目標値 (H21~H25)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px; background-color: #e0e0e0; border-radius: 10px; padding: 5px;">184千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 70千m³</p> <p>民有林 114千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">民有林供給可能量 140千m³</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">目標値 (H21~H25)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px; background-color: #e0e0e0; border-radius: 10px; padding: 5px;">159千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 30千m³</p> <p>国有林 15千m³</p> <p>民有林 114千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">民有林供給可能量 225千m³</p>	<p style="text-align: center; border: 1px solid black; padding: 2px;">目標値 (H21~H25)</p> <div style="display: flex; align-items: center; justify-content: center;"> <div style="margin-right: 20px; background-color: #e0e0e0; border-radius: 10px; padding: 5px;">150千m³</div> <div style="font-size: 2em;">}</div> <div style="text-align: left;"> <p>県有林 60千m³</p> <p>民有林 90千m³</p> </div> </div> <p style="text-align: center; margin-top: 10px;">民有林供給可能量 172千m³</p>

富士川中流木材供給指針の概要

作成の背景

(概況) 外材需要の逼迫、国内・県内森林資源の充実、国産材需要の増加、国産材価格の低迷と脆弱な供給体制
 (経緯) 平成19年度から富士川中流域における林業関係者をメンバーとした「富士川中流域安定協議会」を立ち上げ、安定供給を行うための課題等について協議
 (目的) 流域における木材の安定的な供給体制の構築を、関係者全体が一体となって取り組み、先導的な役割が期待されている本流域の木材の安定供給の早期確立を図る
 (作成) 富士川中流域安定協議会により、平成20年2月にこれまでの検討結果を踏まえ、安定供給実施のための取組方針や供給目標を内容として作成（計画期間：平成21～25年度）

● 県産材供給目標

現状値(H16～20)

・県有林 31千m3
 ・国有林 10
 ・民有林 53
 合計 94千m3

目標値(H21～25)

・県有林 30千m3
 ・国有林 15
 ・民有林 114
 合計 159千m3

● 課題解決のための方策

A 事業地の確保・とりまとめ

- ・ 事業地を効率的に確保する提案型集約化施業を実践できる森林施業プランナーの養成
- ・ 林業関係者による森林情報の共有化を図り、集約化に必要な行政機関の支援・協力を求める

B 低コスト施業システムの構築

- ・ 路網と高性能林業機械を組み合わせた効率的施業に必要な取り組みを推進
 - > 実践できる技術者の養成
 - > 施業実績の検証・蓄積
 - > 技術力に応じた箇所選定
 - > 役割分担による路網整備

C 販売・流通の体制整備

- ・ 関係者が市場ニーズを共有できる木材流通ネットワークの構築を図る
- ・ ニーズに応じた原木供給と、地理的条件を活かした需要開拓の推進
- ・ 新たな販売方式の検討

● 流域の森林・林業の現況

- ア 森林の所有構造
 - 小規模森林所有者が大半
- イ 森林資源の現況
 - 高齢級人工林の増加
- ウ 路網整備の現況
 - 低い路網密度
- エ 森林組合等林業事業体の状況
 - 素材生産体制は脆弱
- オ 木材産業の状況
 - 市場機能は拡大の余地有り

● 安定供給に関する課題

- A 事業地の確保・とりまとめ
 - ・ 森林所有者の意識の低下
 - ・ 森林情報の未整備
 - ・ 渉外事務による事業地とりまとめが困難
- B 低コスト施業システムの構築
 - ・ 地域に適した作業システムの選択
 - ・ リバの多い高性能林業機械の導入
 - ・ 不明確な急峻地での路網開設コスト
- C 販売・流通の体制整備
 - ・ 夏期取扱量の減少
 - ・ 需要者拡大策の不備